2008.11.8

“組曲”の魅力を探る　第1回

プログラム

組曲はいくつかの曲、あるいは楽章をひとつにまとめた器楽曲で、大きくふたつのタイプに分けられます。ひとつはバロック時代の古典的な器楽形式であった組曲です。これはアルマンド、クーラント、サラバンド、ジーグを基本的な楽章に置き、前後に様々な舞曲が挿入されるというものです。19世紀後半に入ると組曲はこのような特定の形式を持たず、バレエやオペラ、劇音楽などの中から選んで自由に配列した組曲が主流となります。また、今回お聴き頂くマスネやサン=サーンスの作品のように独立したオーケストラのための組曲も数多く生まれて行きます。そんな様々な組曲の魅力を２回に分けてお聴きいただきたいと思います。今日はその第１回目です。

＊＊＊＊＊＊＊

カミーユ・サン=サーンス（1835～1921）：
組曲“動物の謝肉祭”から
（1.序奉と獅子王の行進　3.野性のロバ　4.カメ　6.カンガルー　7.水族館　8.耳の長い登場人物　10.鳥小屋　12.化石　13.白鳥　14.終曲）
マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）/ネルソン・フレイレ（ピアノ）/イザベル・ファン・クーレン（ヴァイオリン）
ギドン・クレメル（ヴァイオリン）/タベア・ツィンマーマン（ヴィオラ）/ミッシャ・マイスキー（チェロ）
イレーナ・グラフェナウアー（フルート）/ゲオルク・ヘルトナーゲル（コントラバス）他
（1985年録音/グラモフォン盤）

ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685～1750）：
イギリス組曲第3番ト短調BWV808
（プレリュード～アルマンド～クーラント～サラバンド～ジーグ｛ガヴォットを省略｝）
マレイ・ペライア（ピアノ）　（1996.9.8　ルツェルン、クンストハウスLive）

モーリス・ラヴェル（1875～1934）：
組曲“マ・メール・ロア”
眠れる森の美女のパヴァーヌ ～おやゆび小僧 ～ パゴダの女王レドロネット ～ 美女と野獣の対話 ～ 妖精の庭
シャルル・デュトア指揮フランス国立管弦楽団
（1993.12.9　サントリーホールLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

ジュール・マスネ（1842～1912）：
管弦楽組曲第4番“絵のような風景”
1.行進曲　2.バレエの調　3.夕べの鐘　4.ジプシーの祭り
ジョン・エリオット・ガーディナー指揮モンテカルロ国立歌劇場管弦楽団（1976年録音/エラート盤）

マヌエル・デ・ファリャ（1876～1946）：
スペイン民謡組曲（『七つのスペイン民謡』よりパウル・コハンスキ編曲）から
ナナ（子守歌）～ ポロ ～ ホタ
イツァーク・パールマン（ヴァイオリン）/サミュエル・サンダース（ピアノ）（1978年録音/EMI盤）

ゾルタン・コダーイ（1882～1967）：
組曲“ハーリ・ヤーノシュ”から
序曲：お伽話は始まる ～ ウィーンの音楽時計 ～ 歌 ～ 間奉曲 ～ 皇帝と廷臣の入場
ゲオルク・ショルティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（1995.4.20　ウィーン・ムジークフェラインザールLive）